
Catch the eye 2017年12月

2017/12/4 いずれ飛躍を
(月)

今日は午後から雨の予報。おととい昨日とよく晴れて、暖かった。雨の後はぐっと寒くなるらしい。7日は大雪、冬本番。

一国のトップがメディアの報道に対して日常的に「それはウソだ」、「ファイクニュース」だと世界につぶやく時代。SNSの評価で個人の価値を測るサービスが現れる時代。

「大体人は価値あるものとして、真実であること、善良であること、美しくきれいであることの三つを好み…」と『美学入門』の中で「中井正一」が書いていた。

真実、善良、美。「大体」の人はこれからそれらをどう捉えていくだろう。大事に考える人はさらに知性と感性を磨こうとし、あまり考えない人はさらに考えずにその場の喜怒哀楽の感情にまかせて行動する。

前者は確実に少数派。後者とのギャップは甚だしくなる。ハウツーの対処療法的なことでは、埋まらない大きなギャップ。大小の組織、社会の不安定要素となりそう。だからロボットがカバーすることになる？

創業のビジネスプランに心の健康をテーマにあげた創業塾受講者に出会ったのは10年ほど前。今ではけっこう多い。「自分らしさ」を発見する、「自分らしさ」をとり戻す等などのモノやサービス。

「飛行機が離陸した時の、あの解放感！！」と言った相手に、きょとんとしたら、「海外へ旅行する時、そう感じませんか?!」。「いやー、そんな風に感じたことないですね…」と返したら、えっ?の表情。

知ってみて驚くのは、けっこうみな、窮屈な思いをしながら働き暮らしているのだということ。20年前、知人の一人が「ずっと自分のことが嫌いだった」と話すのを聞いて、これもびっくりした。

でもいずれは自分を生き、飛躍しようとする人たちと公私ともに会う。何かしらアシストする。そのたびに、ほんと、世の中にはいろいろな思いをもった人たちが生きているんだあ…と感じ入るのです。

2017/12/8
(金)

方違神社

堺東で午後一番に仕事があった。早めに着いて「方違神社」を訪ねた。最初若い女性に道を尋ねた。とっさにはわからない感じで、しばらくして合点がいった風で道順を教えてくれた。「すぐです」と言われたわりには建物が見えないので、近くを通りがかった年配の女性に聞いた。すると、「あっ、<ほうい>ではなくて、<ほうちがい>と読むの、ここから…」。

若い女性は読み間違いを正すのは気がひけたよう。仕事が終わってからは、「利晶の杜」へまわり、「与謝野晶子記念館」と「千利休茶の湯館」をみた。こじんまりとしているが、立派な建物だった。



2017/12/10
(日)

a la main

アットホームなクリスマス・ジャズサロン。なんとお贅沢な時間。オープンからはや1年半、自分ならではの仕事といき方をしている男女20数名集った。互いの存在を知ってまた自分の道に力をそそぐ。「a la main」という場があってこそことです。





サンタさんから皆にプレゼントも！



2017/12/14 耳、音調、情操
(木)

あまりに寒すぎてオイルヒーターが追いつかない。事務所内がなかなかあまり温まらない。外は冬晴れの青空。寒さが余計に冴える。12月もあつという間に時間がすぎて残り半分。

「最近とくに自分の老化を感じて…」一昨日訪ねてきた友人がこぼす。どういうところで？と聞き返す。人の話がちゃんと頭に入ってこない。ある説明会で聞いた内容がうまく頭の中におさまっていないかったとか。

老化を感じるほどの年齢ではない。一人で創作活動をしているから創ることに集中し、専念していて、人と話すことがなくなっているせいじゃないのと話した。

相手の話に反応して、会話を重ねることは頭を働かせる。考えの出し入れを活発にするから、会話が少なくなると、耳も口も頭も怠慢になる。特に聴覚はけっこう大事なセンサーではないかと最近思う。

「岡潔」は<見る>ではなく<聞く>をつよく勧めていた。「中井久夫」は、人の関係性、治療においても、<音調>が最大の要だと本の中で静かに語っていた。

先週末の夜、ラジオをつけて、FMを聴き始めたが、少しして消した。番組では若い声の男性二人が話していた。一方は番組のパーソナリティ、もう一人はゲストのクリエイターだった。

なぜかこの二人の会話が気持ちわるかった。内容は二人が意気投合してゲストに感じ入るやりとりだった。それ自体はどうってことないのに、耳障りに感じてしまった。

ラジオを消した後、われながらどうしてだろうと考えた。ゲストの話が感心するほどじゃないという思いはあった。そういうことは多々ある。普段ならふーんという感じで聞き流しているのに、どうして？

たぶん二人の話し方だ。声の質感、トーン、言葉つがいのメリハリなどなど。総じていえば、情感のようなものが会話に乗っていない。たぶん本当に感心しているのだろうけど、感心の源の潤いが無い、そういう印象。

ここで「情」、「情操」が頭をよぎった。情あつての知と心得なければ。

2017/12/19
(火) 本の選択

朝雨がぱらついた。でもお昼前から陽が照り出した。ラジオからはクリスマスソングがあふれる。今年も残り2週。22日は冬至。

毎日手帳の予定表を眺めているのに、時間にはいつも不意を突かれる。早めに済ませようと思っていた残務のいくつか、むこう一週間のうちに済ませないと、今度は年末年始の雑務が控えている。やれやれ。

他の人にくらべても、時間については気にとめている方。時間に追われず、追う立場になるよう、そのためのツールも何種類か作り、活用もしている。それでも、時々、あつ、えっ?!

そのたびに、時間にしてやられた感。そういうこともあって、新聞の広告を見たときから気になっていた本、『時間とはなんだろうか 最新物理学で探す「時」の正体』（松浦壮 講談社ブルーバックス）。

先週三番街の紀伊国屋書店で買ったのだが、平積みはこの本の隣に目がいった。うん?!、『カラー図解 新しい人体の教科書』（山科正平）。同じくブルーバックス。新書サイズのこのような本、珍しい。

さすがにぶ厚く、おまけに上下2巻の代物。当然そうなるはず。実はこういう本がほしかった。大きな図鑑ではなく、手軽に体の構造を確認できるような本。

健康や体づくりに関する情報はあふれているし、専門家も多いが、どうも一面的な知識や技能の感じがしてならない。小宇宙といわれる人間の体のことを総合的にとらえて教えてくれているのではないかと。

さまざまな情報を自分なりにうまくとり入れるためにも、根本のところを抑えておく方がいい。そんな風に考えていたから今回の本はうってつけ。この上下巻お一緒に買って、ぼちぼち読み始めたところ。

二人の著者には相通じるものがある。そして、どちらの本もまだ少ししか読んでいないけど、選択は正しかった。当方の関心事に面と向かって答えてくれている印象。さっと買う気になっただけのことはある。

2017/12/22
(金)

冬至

冬至を迎えた。日の入りは十日ほど前から遅くなり始めている。日の出が早くなるのは1月の中旬になってから。それでもこれから新しい春に向かうと思うと、気持ちが上向く。元日まであと十日。

忘年会シーズンに合わせて旧伊勢丹地下に新しい飲食街が今週オープンした。たまたま近くを通ったので、のぞいてみた。開店時間早々だったが、事前にテレビで紹介された店には行列ができていた。

その他は人も少なかったので、ざっと一通り見て回った。ふらっていたのは、「海鮮が安いだけの店」とうたった居酒屋スタンド。「昼から呑める 人生は素晴らしい！」の張り紙。思わずニンマリしてしまった。

時代の大きな流れは長い目でみれば庶民にとってはけっして安穩とできない世の中。今のうちに思うように生きていた方がいいんじゃないかと最近思う。昼から呑む、それもいいじゃありませんか。

2017/12/26
(火)

終わり京都

今日は晴れ時々曇り。クリスマスも終わり、一気に迎春ムード。この変わり身が滑稽に映る、毎年のことだけど。

昨日午後に京都府庁でちょっと仕事があった。京都御苑の近くだから、帰りは中をとおって駅に向かった。

ひよっとすると梅林には蠟梅が咲いているかもと思ったが、広い御苑内、そこまで歩く気は失せた。

冬枯れの木々。人はほとんどいない。自分一人が歩いているような気になる。木のベンチもどこも空いている。でも一服するには寒すぎる。

帰りは初めから京都駅地下の「イノダ」へ寄ることにしていた。全席禁煙になってから、すぐに席へ案内されることが多くなった。

湯銭なしのブラックコーヒーと抹茶と栗のモンブランを注文した。斜め左から若い女性2二人客の話声が耳についた。「イノダ」らしからぬ。

新快速が遅れていた。電車を待つ行列がかなりだった。時間は4時20分頃。日の入りを見られる時間でもあるから普通に乗ることにした。

上手い具合に山の見える側の席が空いていた。京都駅を出てしばらくは本を読み、「山崎」を外を見た。

日の入り光りをうけ、雲の多い冬の青空がオレンジ色をまとうていた。ターナーだったか、こんな空を描いたのは。

山々のすぐ後ろにかくれた夕陽が見えるようだった。こういうこともあるのか、稜線がなんと、溶鉱炉から出てきたばかりのように焼けて見えた。

普通電車に乗って正解だった。車内は混むこともなく、外の風景が眺められた。浮き世にて、浮き世はなれて、年の暮れ。

京都府庁



2018/1/2
(火)

2017年が過ぎ

大晦日の京阪神は曇り空で夕方になり、少し雨がぱらついた。2018年元日は穏やかに晴れた。

2017年は1997年の「山一破たん」から20年。戦後五十年の社会構造が根本的に変わり始めて、その大変化も定着するに十分な20年。デジタル社会はこれからAI社会へ。

技術は進化して、変わるのは人間。『道具は悪くない。問題は人間がそれをどう使うか』と専門家は言うけれど、大抵は<使われる>側、本人も意識しないままに。

人間の五感、野性がどう育まれるのか。情、情緒はどう養われるのか。自分で考え、決断し、動き、軋轢や葛藤を受けとめる度量はどう培われるのか…。

社会のあれやこれ、人間の営みなどを色々と考えていると、いずれはやはり「歴史は繰り返す」のが必然に感じられる昨今。わが身をふりかえりつつ、まずは人間らしい人間として、自分を生きようと思う新年。